

人類直立二足歩行の謎<直立二足歩行が始まったのはサバンナか森の中か？>

～以下、書評「直立歩行—進化への鍵（クレイグ・スタンフォード 著）」

（本社論説委員 吉田文彦 評）<朝日新聞（04.12.5）>より～

注：・・・・・・は省略部分。太字は引用者が強調のためにそうしました。

■悠久の時間の産物としての二足歩行

かつては恐竜にも二足歩行を得意とするものがいた。短時間短距離ならチンパンジーも立って歩ける。だが、ヒトのように長時間にわたり、効率的に直立歩行できる生物種は他に存在しない。

ヒトをヒトたらしめたのは直立歩行だった。自由になった手で道具を操り、脳の発達にも大きく貢献したからだ。だが、直立歩行への進化の因果律は今なお多くの謎に包まれている。

・・・・・・ただ一つの理由で、あるいはただ一つのステップで二足歩行が現れたという観念を振り捨てること・・・・・・。

こんなシナリオがある。**環境の変化で森林が減り、サバンナ（草原地帯）が増えた。サバンナに出たヒトの祖先（サル）は周囲の安全を確認したり、遠くの獲物を見渡したりするために、すっと立ち上がり、やがて二足歩行を得意とするようになった……。**

だが・・・・・・今は「**ヒトの進化の決定的な段階は、サバンナではなく森のなかで繰り広げられた**」との説が有力・・・・・・。
果実を入手するため、枝の上に立つ。実がなくなると地上に下りて別の木に移り、まずは低い実^①に手を伸ばす。こうした行動は完全な直立歩行ではないが、原型ではある。同じような行動が「何百万回も繰り返されれば、祖先には利用できなかった食料資源を利用できる類人猿の系統が自然選択で有利」になり、同類他者に差をつけたとも考えられる。

「肉食」がヒトへの進化に大きな影響を与えた・・・・・・。直立歩行し、道具を使うようになった祖先は、肉を好んで食べるようになった。栄養の収支は大きく改善され、脳の拡大につながり、知能の発達にも貢献した。狩猟生活への移行には、「心身の設計」を変化させる壮大な物語が潜んでいたのである。

直線的ではない。むしろさまざまな伏線が試行錯誤を経ながら、進化の推力となる。「二足歩行は、数百万年かけて形づくられた手の込んだ芸術作品」・・・・・・。